

## 東京マラソン 2023

### 【出場結果】

実施日 : 3月5日(日)

コース : 東京都庁～飯田橋～神田～日本橋～浅草雷門～両国～門前仲町～銀座～高輪～日比谷～東京駅前・行幸通り(日本陸連・IAAF/AIMS 公認コース)

出場者 : 加藤 平

リザルト:

|     |                            |
|-----|----------------------------|
|     | 加藤                         |
| タイム | 2:12'06"<br>自己ベスト<br>新電元記録 |
| 順位  | 34位/38,000名(定員数)           |

### 【レポート】

今年度の東京マラソンは定員数がコロナ禍前の水準となる38,000名となり、国内のマラソン大会も本格的に復活したことが証明された大会となりました。

本大会は、World Athletics(WA/ワールドアスレティックス/世界陸連)によって、「World Athletics Label Road Races」の最高峰の格付けとなるエリートプラチナレベルに認定されており、国内外から多くの招待選手、エリート選手が出場となりました。

当社からは2時間14分台の自己記録を持つ加藤がエリート選手枠で出場しました。

加藤は、12月に開催された福岡国際マラソンで日本人8位の活躍を見せましたが、1月からは脚の痛みで悩まされ、最後まで自身のコンディションを見極める中、最終的には本人の大会にかける想いを優先する形で出場を決めました。



序盤は1km3分ペースの集団でレースを進める加藤

レースに臨むにあたり、序盤から中盤にかけて 1 km 3 分のペースを意識してレースに臨み、15 km 迄は狙い通りの走りで 1 km 3 分ペースを維持すると、以降は少しペースを落とすもハーフマラソンを 1 時間 4 分 5 秒の自己記録で通過し、好記録を予感させる走りでレースを進めました。



ハーフマラソンを自己記録で通過し、記録更新の期待が高まる！

25 km 過ぎてからは 1 km 3 分 12~14 秒前後のペースになり、苦しい時間帯となりましたが、ペースダウンを最低限に留めると、前方から落ちてくる選手を次々と抜き去り、序盤は 70 位前後だった順位を、35 km 地点では 47 位まで上げる粘りの走りでレースを進めました。



30 km 以降もしっかりと前を見据え、快走を続ける加藤

# ShinDengen

マラソンで一番きついとされる 35 km を通過し、ラスト 7.195 km は記録更新を信じて、肉体面・精神面もギリギリの状態の中、身体を前に進めて、ゴールのある東京駅前・行幸通りに姿を現すと、渾身のスパートを見せて総合 34 位 2 時間 12 分 6 秒でゴールし、自己記録を 2 分以上も更新する結果となりました。



ラスト 195m、記録更新を信じてラストスパートを見せる加藤！！



大幅な自己記録・新電元記録の更新おめでとう！！

## 【総 評】

今回のレースに臨むにあたり、昨年の同大会は故障により「欠場」という悔しい思いをした加藤でしたが、1年前と同様に1月から脚の痛みで苦しむ中、トレーニング計画を大幅に見直す中で、最後まで出場を信じて日々のトレーニングに取り組んできました。

最後は本人の大会出場に対する「強い決意」を確認し、出場に踏み切りましたが、レース中は脚の痛みも感じさせない素晴らしい走りを見せてくれました。

これも仕事と競技の両立をする中で、加藤が陸上競技に対して生活の全てをかけて臨んだ結果であると感じます。

次はいよいよ「サブ10」を本気で狙っていくレースを見据えることとなりますが、加藤であれば、その高い壁を打ち破る努力をしてくれると確信していますので、夢を形にする瞬間に立ち会えることを楽しみに待っていたと思います。

全日本実業団ハーフマラソン、東京マラソンと4名の選手が確実に結果を残してくれましたが、今後は8名の選手全員が活躍出来るチーム体制の構築が必須となるため、あらためてチームの再建に向けて、選手・スタッフが丸となって日々の活動に邁進して参ります。

引き続きまして、皆さまの温かいご声援を宜しくお願い致します。

以 上

※画像提供：佐藤圭一様